

当科ではチームで腹腔鏡下胃切除の定型化に取り組んでいます。以前は早期胃癌を中心に腹腔鏡下胃切除を行ってきましたが、最近では進行胃癌にも積極的に行っています。2023年の胃癌手術の腹腔鏡手術率は86%に増加し、多くの症例を腹腔鏡で行っています(表1)。

腹腔鏡手術では、まずお腹を二酸化炭素ガスで膨らませ、小さな穴を5個開けてそこから腹腔鏡カメラや手術器具を挿入します(図1)。腹腔鏡カメラの映像をモニターに映し出して、胃や周囲リンパ節の切除、再建(胃と十二指腸をつないだり、食道と空腸をつないだり)を行います。

高画質の3Dカメラを使用しており、拡大された鮮明な画像により、従来の開腹手術では見えにくかった細かい血管や神経線維まで認識することができ、繊細で丁寧な手術を行うことができます(図2)。腹腔鏡手術でも開腹手術と同等の根治性の高い手術を目指しています。腹腔鏡手術は傷が小さいため、術後の痛みが少なく回復が早いのも特徴です(図3)。

安全でかつ根治性の高い手術を行うには、術前検査も重要です。当科では消化器内科と密に連携し、術前クリッピングなどの術前検査を行っています。術前に腫瘍の近くにつけたクリップを手術中に胃カメラで確認し、正確な胃の切離を行います。

これからも安全でかつ負担の少ない腹腔鏡下胃切除を患者さんに提供していきたいと思えます。

胃切除	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
腹腔鏡下幽門側胃切除	18	5	15	13	14	16
腹腔鏡下胃全摘	4	0	3	4	4	18
腹腔鏡下噴門側胃切除	2	2	0	4	2	1
その他の腹腔鏡胃切除	4	1	4	1	1	2
開腹幽門側胃切除	15	15	14	13	14	3
開腹胃全摘	22	8	9	6	14	1
開腹噴門側胃切除	1	0	0	0	0	0
その他の開腹胃切除	2	1	1	0	2	2
腹腔鏡率	41.1%	25.0%	47.8%	53.7%	41.2%	86.0%
合計	68	32	46	41	51	43

表1 当科の胃癌切除件数

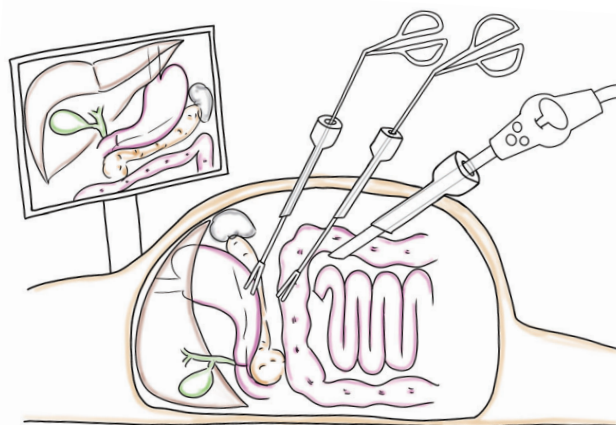


図1 腹腔鏡下胃切除の実際

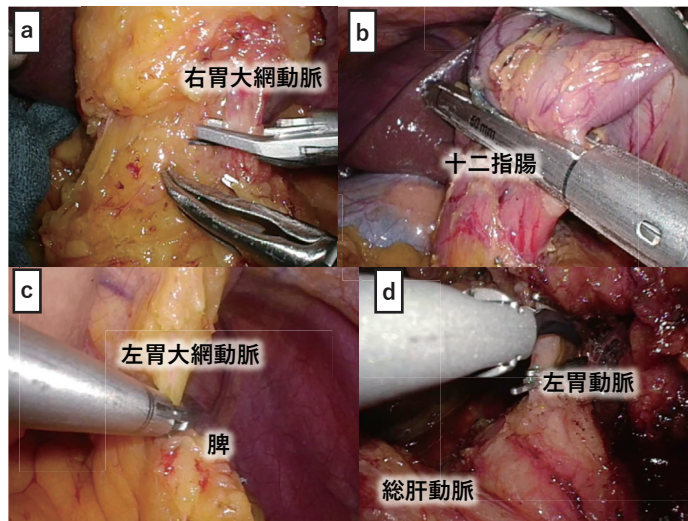


図2 腹腔鏡下幽門側胃切除

- a: 右胃大網動脈の切離
- b: 十二指腸の切離
- c: 左胃大網動脈の切離
- d: 左胃動脈の切離

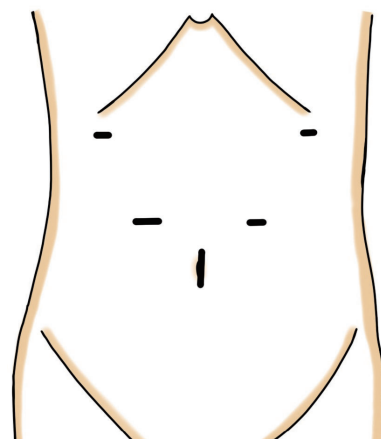


図3 腹腔鏡下胃切除のお腹の傷